

情報通知

研究課題名： 頸部筋力と身体機能・栄養状態・認知機能との関連—後方視的観察研究—

研究の実施体制： 榎健人(責任者)、森脇怜(沼田脳神経外科循環器科病院 言語聴覚士)、一戸璃子(沼田脳神経外科循環器科病院 言語聴覚士)、加藤愛理(沼田脳神経外科循環器科病院 言語聴覚士)、酒井哲郎(群馬パース大学 リハビリテーション学部 言語聴覚学科)

研究の目的 摂食嚥下リハビリテーションにおいて、喉頭挙上の評価および訓練は重要な役割を果たします。喉頭挙上には舌骨上筋群や舌骨下筋群が関与しており、これらの筋力（以下、頸部筋力）の低下は咽頭期の嚥下障害の一因となります。特に舌骨上筋群は、嚥下時の舌骨・喉頭挙上に直接関与しており、咽頭液刺激による嚥下時の喉頭運動と舌骨上筋群活動の変化を測定した研究でも、その重要性が示されています。

近年、頸部筋力を客観的に評価する手段として、頸部アタッチメントを装着したハンドヘルドダイナモメーター（HHD）による計測法が開発され、頸部筋力を定量的に評価することが可能となっています。これまでに頸部筋力と経口摂取能力を示す Functional Oral Intake Scale (FOIS) との関連は報告されています。しかし、握力、歩行速度といった身体機能や Body Mass Index (BMI) や下腿周囲長などの栄養状態、さらに Mini-Mental State Examination (MMSE) による認知機能との関連については十分に明らかになっていない。そこで本研究では、これらの指標との関連を検討し、頸部筋力に関連する要因を明らかにすることを目的としています。

本研究では、過去に対象者から同意を得て収集された年齢、頸部筋力、舌圧、FOIS のデータを活用し、さらに診療録から握力、歩行速度、BMI、下腿周囲長、MMSE といった臨床情報を後方視的に収集します。これにより、頸部筋力と嚥下機能との関連を、身体機能や栄養状態および認知機能との関係を含めて検討することが可能となります。

本研究により、頸部筋力が嚥下機能に与える独立した影響を明らかにし、嚥下機能評価やリハビリテーション介入における臨床的意義を検討するとともに、誤嚥リスクの早期評価や個別化された嚥下リハビリテーション戦略の構築に資する知見を提供することが期待されます。

研究の対象： 2024年9月～2026年4月までの期間で沼田脳神経外科循環器科病院に入院し、言語聴覚士によるリハビリテーションを実施している患者様とします。当院のデータベースの情報をそれぞれ見返して、情報を集めさせていただきます。対象となることを希望されない方は、最下部の連絡先までご相談ください。

収集する情報： 疾患名、握力、下腿周囲長（CC）、BMI、MMSE、歩行速度、FOISとなります。

情報の保管および破棄、情報公開の方法：データを解析する段階では、個人を特定できる情報は含まれません。検査結果は Excel への出力および ID 番号を用いて対応表にて管理します。ファイルはパスワードでロックし、パソコンは施錠可能な室内にて保管します。ファイルの移動に関しては、パスワードでロック可能な USB を用いて行います。研究終了後のデータの取り扱いとして、デジタルデータはいかなるソフトウェアでも復元できないよう PC 上で完全に削除します。

得られた結果については論文あるいは学会で発表することがあります。

見込まれる医学上の貢献：本研究により、ハンドヘルドダイナモメーターを用いた舌骨上筋群の筋力測定が、嚥下機能の評価に有用であることが示されれば、リハビリテーション現場での嚥下評価が迅速かつ客観的に行える可能性があり、患者の栄養管理や誤嚥リスクの低減に資することが期待されます。

研究に関する問い合わせ先：

群馬県沼田市栄町8番地、0278-22-5052 (内線5410)
沼田脳神経外科循環器科病院 リハビリテーション課
担当者: 捧 健人 (責任者)